

精神看護学実習

I 実習目的

精神に障害のある対象とその家族をありのままに理解し、健康上の課題が対象の生活行動に及ぼしていることを総合的に把握し、対象がその人らしく生活するために必要な看護を実践するための基礎的能力を修得する

II 実習目標

- 1 精神に障害のある対象およびその家族をありのままに理解する
- 2 精神に障害のある対象およびその家族のもつ課題を把握し、看護を展開する
- 3 対象との関わりを通して自己を振り返り、自分の対人関係の傾向と特徴を考察する
- 4 地域における支援事業を知り、地域で生活している対象を理解する
- 5 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と対象の権利擁護について自らの考えを述べる
- 6 実習を通して倫理的な態度と言動を示す

III 実習構成

- 1 単位と時間数
2 単位（総時間数 80 時間）
- 2 実習構成内容・実習場所・実習時間

実習構成内容	実習場所	実習時間
実習オリエンテーション	新潟県立十日町看護専門学校	5H
精神科病棟に入院している対象の看護	新潟県立精神医療センター 新潟大学地域医療教育センター一魚沼基幹病院	63H
地域で生活している対象の看護	障害福祉サービス事業所等	12H

IV 実習内容

実習目標・行動目標	実習内容
<p>1 精神に障害のある対象およびその家族をありのままに理解する</p> <p>(1) 対象の疾患や症状を身体的・心理的・社会的側面から説明する</p> <p>(2) 対象に行なわれている治療について説明する</p> <p>(3) 対象とその家族の関わりの経過を説明する</p>	<p>①ゴードンの視点に基づいた情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケアの状況 ・社会生活の自立の程度 <p>②精神症状の観察（興奮、気分障害、幻覚妄想、無為自閉、拒絶、希死念慮など）</p> <p>③信頼関係の構築とコミュニケーション技術</p> <p>④対象の生活史と周囲の人々との関係性</p> <p>⑤疾患とセルフケア行動との関連</p> <p>⑥生きる力と強みに着目</p> <p>⑦対象の人柄・個性</p> <p>⑧対象が抱える生きにくさと社会生活</p> <p>⑨精神障害者に対する偏見、スティグマ</p> <p>⑩治療内容（薬物療法、電気痙攣療法、精神科リハビリテーションなど）</p> <p>⑪家族とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート状況 ・対象との関係性
<p>2 精神に障害のある対象およびその家族のもつ課題を把握し、看護を展開する</p> <p>(1) 対象の疾患や症状が身体面に与える影響について分析する</p> <p>(2) 対象の疾患や症状が心理面・社会面に与える影響について分析する</p> <p>(3) 精神障害・精神症状が日常生活に与える影響について分析する</p> <p>(4) 収集した情報を互いに関連づける</p> <p>(5) 対象が抱えている看護上の問題を抽出する</p> <p>(6) 達成可能で具体的な看護目標を立てる</p> <p>(7) 対象に応じた具体的な援助を計画する</p> <p>(8) 対象の強みを生かした、自主性・継続性を尊重した援助を実施する</p> <p>(9) 精神症状を考慮した援助を実施する</p> <p>(10) 安全・安楽に援助を実施する</p> <p>(11) 実施した援助の結果や患者の反応を述べる</p> <p>(12) 結果に基づいて評価・修正する</p>	<p>①情報の分析・解釈</p> <p>②精神障害が対象の生活に与える影響</p> <p>③看護問題の明確化</p> <p>④看護目標の設定</p> <p>⑤対象のストレングス（強み）に着目し、継続的、自主性を尊重した看護計画と援助の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な側面へのアプローチ ・対象の希望や目標の尊重 ・継続的な支援・関わり <p>⑥精神症状に応じた関わり</p> <p>⑦援助内容、時間、患者の反応などの正確な報告と記録</p> <p>⑧看護目標の達成状況、その達成に影響をもたらした要因などの評価</p>
<p>3 対象との関わりを通して自己を振り返り、自分の対人関係の傾向と特徴を考察する</p> <p>(1) 対象の言動に対する自分自身の言動や感情を述べる</p> <p>(2) 対象との対人関係における自分の傾向・特徴を考察する</p> <p>(3) 自分自身の言動や感情が対象と相互に影響していることを述べる</p>	<p>①プロセスレコードの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象と自分自身の感情、意志、思考 <p>②転移・逆転移</p> <p>③自我の防衛機制</p> <p>④言語的・非言語的コミュニケーション</p> <p>⑤自分の対人関係の傾向・特徴</p> <p>⑥日々の対象との関わり</p>

<p>4 地域における支援事業を知り、地域で生活している対象を理解する</p> <p>(1) サービスを利用している対象の日常生活について述べる</p> <p>(2) 地域で生活する対象への支援の実際について障害者総合支援法に関連させて説明する</p>	<p>①利用者の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様子、表情、動作 ・他利用者との交流、コミュニケーション ・家族との関係 <p>②障害者総合支援法における支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練等給付・介護給付・自立支援医療 相談支援・補装具 ・地域活動支援事業 <p>③施設利用の目的、活動内容、構成職種</p> <p>④利用者に対するスタッフの役割</p>
<p>5 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と対象の権利擁護について自らの考えを述べる</p> <p>(1) 関係機関や他職種との協働における看護師の役割を説明する</p> <p>(2) 対象の入院形態と権利を擁護するための実際の取り組みについて説明する</p>	<p>①医師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士等の専門職との協働</p> <p>②チームとしての看護師の役割</p> <p>③精神保健福祉法に基づく入院と処遇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健指定医 ・入院形態 ・通信と信書、面会、外出、外泊 ・行動制限（身体拘束、隔離） <p>④対象の権利擁護と安全を守ること</p>
<p>6 実習を通して倫理的な態度と言動を示す</p> <p>(1) 他者からの意見や助言を受け止め、自己の態度と言動で示す</p> <p>(2) 自己の課題解決に向けた学習に対する姿勢を示す</p> <p>(3) 実習での経験を踏まえながら自己の学びを示す</p>	<p>①看護職の倫理綱領</p> <p>②身だしなみを整える</p> <p>③患者、スタッフ、教員とのコミュニケーション</p> <p>④相手に対する思いやり、配慮、言動</p> <p>⑤意見や助言を謙虚に聴く姿勢</p> <p>⑥自己の行動の振り返り</p> <p>⑦カンファレンスに臨む姿勢</p> <p>⑧カンファレンステーマに沿った意見交換</p> <p>⑨報告・連絡・相談</p> <p>⑩計画的な看護技術の経験</p> <p>⑪主体的な学習、追加学習</p> <p>⑫学習した知識の活用</p> <p>⑬心身の健康管理</p> <p>⑭テーマに沿ったレポート</p> <p>⑮看護理論の活用</p>

V 実習配置

別紙参照

VI 実習方法

- 1 精神科病院
 - 1) 受持ち患者1名を受け持ち、看護過程のプロセスに沿って看護を展開する
 - 2) 病棟で行なわれている活動（レクリエーション、作業療法、SSTなど）に参加する
 - 3) 自分が体験した患者との一場面をプロセスレコードにまとめ、検討する
- 2 障害福祉サービス事業所等
 - 1) 事業所で行なわれている作業の見学及び活動を利用者と共に行なう（2日間の実習）

VII 実習記録

- 1 評価表（精神 様式1）
- 2 学修成果レポート（精神 様式2）
- 3 アセスメントシートⅠ（共通 様式A）
- 4 全体像（共通 様式B）
- 5 アセスメントシートⅡ（共通 様式C）
- 6 看護計画シート（共通 様式D）
- 7 看護の評価（共通 様式E）
- 8 毎日の実習記録 看護計画立案前（共通 様式F-①）
- 9 毎日の実習記録 看護計画立案後（共通 様式F-②）
- 10 プロセスレコード（精神 様式3）
- 11 障害福祉サービス事業所等実習における学修成果（精神 様式4）
- 12 事前学習・追加学習

VIII 実習評価

最終評価は、評価表に基づき担当教員が最終評価をする